

オウム事件関係者の証言ビデオ放映!!

元警察庁長官 國松孝次氏、ジャーナリスト 江川紹子氏、当時 聖路加国際病院医師 奥村徹氏など、関係者の証言ビデオを放映いたします。

# 第20回 抗議デモ・学習会

## 5月15日(土)

●抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター広場

●学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

### 講演 「オウム真理教犯罪被害者救済法」の現状とこれから

2008年12月に「オウム真理教犯罪被害者救済法」が制定されてから1年半が経過しました。被害者・遺族には「給付金」の支給が始まりましたが、これでオウム真理教事件が解決した訳ではありません。今回は、被害者救済法の内容、制定までの経過、被害者・遺族の心情、そして烏山地域住民にとって今後重要になってくる「求償」について中村裕二氏と高橋シズエ氏に話をさせていただきます。

講師：弁護士、地下鉄サリン事件被害対策弁護団 事務局長 地下鉄サリン事件被害者の会 代表世話人

**中村裕二氏**

**高橋シズエ氏**

烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会



#### 中村裕二氏の略歴

昭和31年5月27日 東京生まれ  
昭和54年3月 中央大学法学部法律学科卒業  
昭和62年4月 東京弁護士会に弁護士登録  
平成元年～同2年 英国ロンドンへ留学  
平成2年4月から現在まで東京都町田市にて「未来市民法律事務所」を設立してパートナー弁護士

平成4年4月から同12年3月まで 中央大学法学部法律学科講師  
平成9年4月から同10年3月まで 東京弁護士会人権擁護委員会副委員長  
平成12年4月から現在まで 東京弁護士会業務妨害対策特別委員会副委員長

**自己紹介** オウムによって殺害された坂本堤弁護士と私とは、同期の司法修習生として、2年間同じ釜の飯を食った仲。平成元年11月、英国留学中にロンドンの日本大使館で坂本事件の報道に接する。平成2年2月帰国後に、「坂本堤弁護士と家族を救う全国弁護士の会」(影山秀人事務局長)に参加する。平成7年から、「地下鉄サリン事件被害対策弁護団」事務局長としてオウム真理教を相手方とする裁判を仲間の弁護士らと担当した。

オウム事件に関して、村上春樹氏の著作「アンダーグラウンド」(1997年3月20日講談社刊)の219頁以下、小林よしのり氏の著作「ゴーマニズム宣言 第7巻・同8巻」(1997年7月双葉社刊)の特別対談コーナーに登場など。

主催：烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

共催：世田谷区

### 「地下鉄サリン事件から15年の記憶」に参加して

地下鉄サリン事件被害者の会主催で行われたついでで、事件当時関わった医師、警察関係者、ジャーナリスト、遺族、被害者の家族10組11人の証言と現状を映像にまとめたものが、上映されました。話の内容からは、忘れる事の出来ない猛毒サリンによる、事件の凄まじさ、報道された当時の様子以上に悲惨な現場、なすすべのなかった医師たちの苦悩が、私たちにも伝わって来て、心が痛みました。

あれから15年、当時公表された死者12人と負傷者5000人以上という数字が、最近の調査で死者13人と被害者6000人以上と訂正され、今だに後遺症に苦しむ被害者が増えているのです。日本の大都市で起きた初めてのテロ事件、このことは特定の人が被害に遭うのではなく、無差別に誰でもが被害の可能性があったことです。

もしかしたら、自分や、回りの誰かが被害者になったかも知れません。私たちは傍観者ではないのです。すべての人がこの事件の恐ろしさを認識して、語り継ぐ事の大切さを改めて痛感しました。

3月20日にTVで放映されたドキュメントドラマでの、事件当初の高橋シズエさんのすさまじい怒りの顔。「事件から10年」のシンポジウムの時の硬い表情の笑顔。そして今回「地下鉄サリン事件から15年のつどい」でお会いした時のさわやかな笑顔。高橋シズエさんが支援者と共に15年間、苦労を重ねて「オウム真理教犯罪被害者救済法」を制定させる過程で、被害者の実態がより鮮明になってきたこと。そのことも含め、ゴールではないとコメントした時の高橋シズエさんの、さわやかな笑顔にかくされた決意を見たような気がしました。



## 新樹苑餅つき大会で募金活動

高齢者センター新樹苑で3月7日(日)、第31回餅つき大会が行われた。新樹苑は京王線八幡山駅から南に10分程歩いた住宅地の中にある。当協議会も募金活動で6人が参加をした。入口から模擬店が続き、焼そば、綿あめ、焼とり、ソースせんべいなどの店が建ち並び、その奥に餅つきの会場があった。会場には餅のつき手が揃っており、明治大学から5名、日本大学から5名、地元の金融機関などからも力自慢が参加して次々につきあがっていく。普段ならつきあがるお餅を待って、長い行列ができるのだが当日はあいにくの雨で、気温も6度という寒さだったためか、並ばずに貰うことができたようだ。

今春から中学生になるという3人が「オウムって何ですか」と聞く。説明を聞き終わってから募金をしてくれた。なかなか新鮮な光景である。いろいろな会場で募金をしてくれる人たちはいつも年配の方であり、

顔見知りの方であったりする。今回募金をしてくれた小学生達は15年前の地下鉄サリン事件の後に生まれた人たちだ。この一瞬のために我々は協議会活動をしているのか、などと話しながら家路についた。



## 監視小屋便り

オウム対策住民協議会は、地域の皆さんとともにオウム施設の監視活動を行っています。現在は39の団体(町会・自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会)の皆さんの協力を得て、年間のローテーションを組み、毎日、教団の動向、信者達の様子を日誌に記録しています。

<日誌より抜粋>

- ・男性信者が3名、車に荷物を積んで旧甲州街道方面に出かける。車には会議用の資材、放送器具等を積み込んだ。
- ・車が3台、事務用品、食料品、雑貨等が積まれました。男性10人位、女性5~6人で出かけました。全員同じリュックサックを背負っているのが異様な気がした。
- ・本日は説法会の為、「ひかりの輪」の出入りが多かった。
- ・今回初めての当番で、正直オウム真理教が起こした恐怖を今になり実感した思いです。風化させることのない様に、守らなければと思った。

- ・上祐がGSハイムの2F右側の部屋を出たり入ったり。その後、廊下を行ったり来たり。明らかにこちらを意識してパフォーマンスをしている様子。教団の長ともあろう者が、道にツバをはいて多くの荷物を積んだ車に乗り込み烏山方面へ。
- ・上祐がそばを通ったりするとやはり怖い感じがする。公安・警察の方々がいて下さるので安心ですが今後も続けてください。
- ・甲州街道よりワゴン車が来た。男性1人女性5人GSハイムに入る。地方よりの帰りと思われ、ダンボール箱、ビニール袋の荷物を多量に運び込んだ。

日誌からは、サンサンマンションの信者達の出入りが少なくなった反面、「ひかりの輪」の動きが多くなり、地方での説法会等を開いている様子が読み取れます。烏山の施設に居住するオウム信者の数は、当初より少なくなっていますが、その活動は今も活発に行われています。住民協議会は「オウム真理教解散・解体」に向け、今後も活動が続けていきます。

## 住民協議会活動報告

3月13日(土) 「地下鉄サリン事件から15年のつどい」参加  
3月19日(金) リサイクルバザー物品受付  
3月19日(金) 実行委員会  
3月26日(金) リサイクルバザー物品受付  
3月29日(月) 住民協議会ニュース94号初校正

4月2日(金) リサイクルバザー物品受付  
4月5日(月) 住民協議会ニュース94号再校正  
4月7日(水) 事務局会議  
4月9日(金) リサイクルバザー物品受付・値付け  
4月10日(土) 「第4回リサイクルバザー」  
4月13日(火) 住民協議会ニュース94号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。